

平成28年度教育課程研修会・教育講演会 報告書

- 日時 11月28日(月) 9:30～午前の部 13:25～午後の部
- 会場 私学会館 大会議室および各会議室(分科会)
- テーマ 「今後の高校教育の課題と展望」
- 目的
 - ① 教育課程に限定せず、教務の仕事全般を見渡して、研究すべき諸問題を深める。
 - ② 特に今後の高校教育改革並びに高大接続改革の動向を注視し、その行方を学ぶ。
 - ③ 各学校の情報交換の場とする。

- 内容

《午前の部》

第1部 全体会

- ① 開会式 部会長挨拶
島田樟誠高等学校 校長 吉永 清貴
- ② 文部科学省高等学校各教科等指導主事等連絡協議会の報告
聖隷クリストファー中学高等学校 教諭 池本 裕之

報告の骨子

平成28年度 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会 総則部会

2016年7月15日(金) 文部科学省旧庁舎6階第2講堂

参加者：聖隷クリストファー中学高等学校 教諭 池本 裕之

学習指導要領改定の動向について ―中央教育審議会での審議経過と今後の方向性―

1 次期学習指導要領が目指す基本的な方向性

(1) これからの時代に求められる在り方：何が重要かを主体的に判断する力、様々な考えを持つ人と協働する力、自ら問いを立て計画し、解決し、更なる問いを立てる力が必要。

(2) 学習指導要領改訂の背景：グローバル化と共に人工知能の進化 → 感性や創造性といった人間の強みを生かせる教育も必要。

(3) 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の概略

① 新しい時代に求められる資質・能力を踏まえた、初等中等教育全体をとおした改訂の基本方針、学習・指導方法の在り方や評価方法の在り方等

② 新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目の目標・内容の見直し

③ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策

(4) これからの教育課程の理念：「社会に開かれた教育課程」

(5) 学習指導要領改訂の方向性：全ての教科・科目に共通する力の構造化、教育の目標・内容・学習過程の明確化

2 各教科等で育成する資質・能力 ―何ができるようになるか―

(1) 育成すべき資質・能力の三つの柱：「学びに向かう力・人間性」・「知識・技能の習得」・「思考力・判断力・表現力」

(2) 表現力とは何か：① 思考判断したことを伝えるという意味の表現力 ② 創造したり構想したりしたものの表す表現力

(3)知識とは何か：事実的な知識と概念的な知識

3 新しい時代に必要となる資質能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し―何を学ぶか―

(1) 国語・(2) 地歴公民・(3) 理数科目・(4) 英語・(5) 家庭科・(6) 情報科・(7) 総合的な探究の時間

4 資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニングの視点」)―どのように学ぶか―

(1)主体的・対話的で深い学びの実現：「学びの本質とは何か」の3視点＝「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」

(2)資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)との関係

5 学習評価の充実 ―何が身に付いたか―

(1) 観点別学習状況の評価について

①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度

6 学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現～「社会に開かれた学校」という観点から～

(1)カリキュラム・マネジメントの3つの側面

①教科横断的な視点で目標達成に必要な教育内容を組織的に配列

②教育内容の質の向上に向け子どもたちや地域の実情を踏まえて評価改善を図るPDCAの確立

③教育内容及び教育活動に必要な人的・物的資源等の効果的な活用

(2)学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ：「何ができるようになるか」・「何を学ぶか」・「どのように学ぶか」・「何が身についたか」⇒どのように支援していくのかをカリキュラムで表現し位置づける必要

(3)資質・能力の育成に向けた各教科等の関係：総則 = 教育のインデックス

7 高大接続システム改革, その他

(1)高大接続改革の全体像イメージ：小中で培った資質・能力を高校で伸ばし大学で更に伸ばし社会に繋げていくもの

∴入試で問われる力 = 学力の3要素を多面的, 総合的に評価できる選抜方法へ

(2)未来を担う子供たちのために「次世代の学校」の創生へ：

①地域からの学校改革・地域創生(地域と学校の連携・協働)

②学校の組織運営改革(チーム学校)

③教員改革(養成・採用・研修を通じた不断の資質向上)

8 高等学校道徳教育について

(1) 高等学校の道徳の目標について (2) 公民科(公共)との関係 (3) 全体計画と指導体制

③ 県外視察研修会報告(本年度は岐阜県・愛知県)

◇ 岐阜聖徳学園高等学校 専門委員 浅井 健雄(加藤学園)

◇ 愛知工業大学名電中学校・高等学校 専門委員 松林 徹(浜松日体)

第2部 分科会

事前に各高校の「新しい学力・教育」についての様子を伺うアンケートを実施し, 当日持参していただき, 資料として参加校の先生に配布しました。それに基づいて各分科会では情報交換ならびに意見交換を行った。

※参加校へのアンケートは以下の内容です。	
1	アクティブ・ラーニングの実践について
2	ICTを活用しての授業について
3	基礎学力向上に向けての取り組みについて
4	観点別評価への対応について
5	その他(各学校での取り組みや課題等)

1 アクティブ・ラーニングの実践について

2 ICTを活用しての授業について

3 基礎学力向上に向けての取り組みについて

4 観点別評価への対応について

5 その他（各学校での取り組みや課題等）

《午後の部》教育講演会

演題：「今日の教育改革の動向…次期学習指導要領の改訂の方向性を中心に」

文部科学省 国立教育政策研究所

初等中等教育研究部長 大杉 昭英 氏

1. 全体会の感想

- これからの教育課程の理念として学校と社会の重要性であることを認識できた。また、教科横断的な視点がこれからの指導計画で必要であることを知ることができた。
- 他校（県外）の高校についての情報を得ることができ、参考になりました。学校案内等も頂けたら良かったと思います。時間に制限があったため、報告の内容を理解するのに、苦労しました。時間的にもう少し余裕があると、より細かく聞くことができると感じました。
- 県外の勢いのある私立高校の取り組みを知ることができたのが良かった。直接活かせることばかりではないが、参考にしていきたい。
- 次期学習指導要領の目指す方向性が見られた。また県外視察報告から、現状を踏まえてどのようなことができるか様々に考えることがあった。
- 最新の情報を得ることができた。これからの教育で求められること、私たちが変化していかなければならないことが具体的にわかりました。また、他県の高校の様子などは写真や資料がとても分かりやすく、参考になりました。
- 県外視察等で他校の教育課程表教務内規などを参考にできたらよいと思いました。
- 文科省高等学校各教科等指導主事等連絡協議会での報告は、短時間での報告で大変かと思いますが、学習指導要領改訂に向けた最新の内容などとても参考となりました。早速、文科省のHPで確認してみます。また、県外視察についても、特色ある教育内容でとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 改訂の大まかな動向。他県・他校の実践が分かり、本校に取り入れられるものは何かを考えることが出来ました。

2. グループ討論の感想

- どのようにして基礎学力の底上げに各校が取り組んでいるのか具体的に知ることができた。
- 他校の実践例や現況を直に聴くことができ、大変良い機会となった。
- 他校との教務的な業務内容の意見交換ができたことは、大変参考になりました。年間行事の組み立てや、各学校の年間行事表など、参考に持ち寄るなど、交換できる情報は教えて頂きたいと思いました。抱えている悩みは同じだと分かりましたが、アドバイザー的な方がいて

くださると良かったと思います。全体会よりもこちらの方に、もっと時間を割いて頂きたかったようにも感じます。

- 各校の現状や抱えている課題等を共有できたのが良かった。特に観点別評価については、しっかりと考えていかななくてはならないと感じた。
- アクティブ・ラーニングやICTの導入について、各学校で苦労がある中で、工夫していることを聞くことができ、今後活かせる情報交換ができた。
- 自分たちの学校の抱えている課題と同じ状況の仲間と出会えることはとても貴重な機会です。自分たちには考えられなかった解決策や、情報交換ができました。改めて自分たちの学校の魅力をも気づかせてくれました。
- 各学校の共通している課題やその解決方法、現在取り組んでいることなど、意見交換ができ、たいへん勉強になりました。本校は、改善が必要な事が多数ある事を確認でき、また色々と助言もいただき参考になりました。
- 他校の実践と問題点を知ることができ、本校の課題を考えることが出来ました。
- 分科会が数回あると、多くの学校と情報交換ができて良いのではないかと。

3. 講演について

- アクティブ・ラーニングの本質として、知識や活動の手法を生徒に定着させ、学習への資質と能力を育てることが重要であると、新たに認識できた。
- 教育改革の話を仕組みや社会背景を聞くことはあったが、その本質についてうかがうことができたことは非常に大きかった。
- 新しい時代に必要となる資質・能力について確認することができ、今後の教育方針について改めて考えさせられた機会となった。
- 指導要領の改訂に向けて、その動向や狙いを聞くことができ、大変参考になった。今後の対策に生かしていきたい。
- 入試のサンプル問題から今後必要とされる力を示されていて、わかりやすかった。教員側のスイッチを切り替える必要があると感じた。
- とても親しみやすい話し方で、聞き手も考えさせられる話の展開がとてもよかったです。先生が、実際にどのように考え、この改革に取り組んでこられたのか感じ取ることができました。改革とは、社会の要求を見極め、将来を見据え、計画的に取り組んでいくものだということがわかりました。
- 次期学習指導要領の改訂に向けて、アクティブ・ラーニングを取り入れた講演がとても印象的で、学ぶ事が多くありました。
- 新指導要領から、求められる人間像を理解でき、その育成のためにこれから何をすべきか考えることが出来ました。
- 新教育課程の改定について、何がどう変わるのかという事が聞けると思っていたのですが、より具体的な内容に触れて下さり、新しく身に付けさせたい能力を具体的にイメージすることができました。
- 全体会で説明があった内容を受けた講演であり、具体的な事例を取り上げたものであったため理解できる内容が多くあった。
- 新しい学力観や学習指導要領で求められる学力についてよく理解できた。また、新テスト

で求められる学力についても理解できた。

- 教育改革の方向性を、理念から説き起こして解説して頂けた。また、ワークショップも交えて「考える力は考えること、判断力は判断すること、表現力は表現することでしか身に付かない」との言葉が印象的で、大変有意義な講演であった。
- 次期学習指導要領においては「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」などの言葉が独り歩きしている感があるが、それらが必要となる理念や考え方を確認することができ、大変参考となりました。

4. 全体を通じての感想

- 県外視察は非常に良いことで、報告をうかがう中で各校の取組がよく理解できました。ここ数年は教育改革の動きに注視する必要もあることを念頭に入れた研修になることを希望します。一方で、これからますます学校間の違いが大きくなることも予測されます。教育講演会の充実をベースにおいた研修でもよいのではないのでしょうか。
- 分科会での他校での実践例や学習指導要領改訂、県外での取り組みを知ることができ、大変良い刺激を受けることができた。
- グループ討議の時間がもう少し欲しいと感じた。
- 私学は教員の異動がないため、狭い範囲での情報交換しかできないのが、現状だと思えます。全体会の内容も興味深く、聞くことはできましたが、グループに分かれての各校の現状や情報を得ることができたことは、大変良かったと思えます。昼食を取りながらも、違うグループの学校の様子を伺うこともできました。そうした雑談の中でも興味深い事柄は多く、今後も研修会にはこのような分科会を取り入れて欲しいと思いました。
- アクティブ・ラーニングにテーマを絞った研修会を開いていただけたらと思う。（実践例など）
- 私立高校は積極的にこのような研修を重ねていくことで教育の充実が図れるのだと思えます。

【記録：専門委員 まとめ：副部会長 島田樟誠高等学校 教諭 山本 真宏】